

今回は 中部学院大学・日本モンキーセンターとの連携事業の報告です。

◇ 中部学院大学各務原キャンパスで、幼児対象の実験を行いました！

主 催： 関高校自然科学部 協 力： 中部学院大学
日 時： 2021年4月24日（土）10:00～12:00
内 容： 幼児対象のナッツ割り実験

◇ JMC一日フィールドワーク体験で、小中学生対象の実験を行いました！

主 催： 公益財団法人日本モンキーセンター 協 力： 関高校自然科学部
日 程： 2021年7月27日（火）・8月3日（火）
内 容： 希望者（小学4年～中学3年）対象の霊長類学実習
霊長類観察、カメラトラップ操作、セミナー、石器を使ったナッツ割体験

◇ 体験学習ボランティア、研究活動を兼ねたワークショップを開催

ヒトの近縁種であるチンパンジーの中には、密林の中でアブラヤシを拾い、器用に石器（ハンマーと台石）を使って硬い殻を割る集団がいます。自然科学部では、2020年からヒトの子どもとチンパンジーのナッツ割り行動の比較を続けています。

2020年2月以降、サイエンスフェスティバルなどのイベントを活用し、ヒトの子どものナッツ割りの様子を観察し、野生チンパンジーの動画と比較しながら研究を続け、様々な機会に発表も行っています。

今回のワークショップは、研究のためのデータ収集の一環であると同時に、体験学習支援のボランティア活動としても位置付けています。

4月24日は、中部学院大学各務原キャンパスにあるラ・ルーラ（子ども家庭支援センター）で、幼児対象に行いました。ラ・ルーラは、地域の子どもの保護者、子育て支援に関わる人々、研究者の交流施設です。ワークショップ当日は、水野友有氏（発達心理学）、林美里氏（比較認知科学）、清水大輔氏（自然人類学）、橋本裕子氏（考古学）が参観され、有益なご助言をいただきました。



7月27日、8月3日は、日本モンキーセンター（JMC）での活動です。2015年より、毎年夏にJMCでの研修を行ってきました。行動観察や骨格などの学術的な研究分野に加え、SDGsに関わる諸問題についても学んでいます。



参加した子どもたちは、熱心に取り組んでくれます。無心にひたすらナッツ割りに熱中する幼児。動画で見たばかりの野生チンパンジーの動きと自分のたたき方を比較し、様々な角度からナッツをたたき、効率のよい割り方を探究する小学生。実験を行うたびに新しい発見があります。自然科学部では関係機関と連携したこの活動を、今後も継続する予定です。